

(11) 沖縄



沖縄地域では、景気は回復している。

- ・ 観光は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

前回調査からの主要変更点

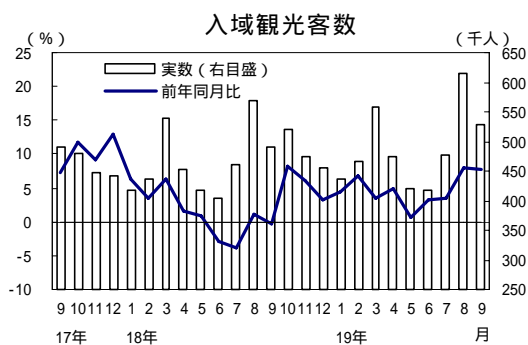
	前回（平成 19 年 8 月）	今回（平成 19 年 11 月）	
住宅建設	減少	大幅に減少	

1. 観光及び企業動向

(1) 観光は堅調に増加している。

入域観光客数は、7月は、台風の影響によるキャンセルもあったが、航空会社の新規路線の開設や利用しやすい時間帯への大型の航空機材の投入や増便、定期クルーズ船の運航再開などから前年を上回った。8月は、好天にも恵まれ、夏期臨時便や航空会社の提供座席数の増加、香港からのチャーター便の増加などから前年を上回った。9月は、台風の影響を受けながらも、3連休が2回あり、リピーター層の動きがよく、学生向けの低価格商品も好調だったことなどから前年を上回った。なお、7月は同月としての過去2番目を記録した。8、9月も過去最高を記録した。

7～9月期における主要ホテルの客室稼働率については、那覇市内ホテルが一部客室改装工事などの影響で前年を下回ったものの、リゾートホテルは、入域観光客数の増加を背景に好調だったことから、全体では前年を上回った。



入域観光客数等の動向

(単位：千人、%)

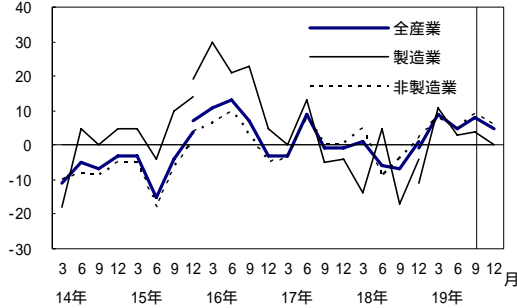
	18年10-12月	19年1-3月	4-6月	7-9月
入域観光客数	1,500	1,459	1,313	1,620
(前年比)	5.9	4.8	2.9	6.6
ホテル稼働率(前年差)	0.2	1.3	0.6	0.5

(備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光商工部調べ。
2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

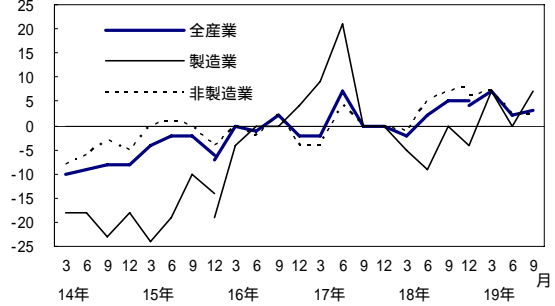
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



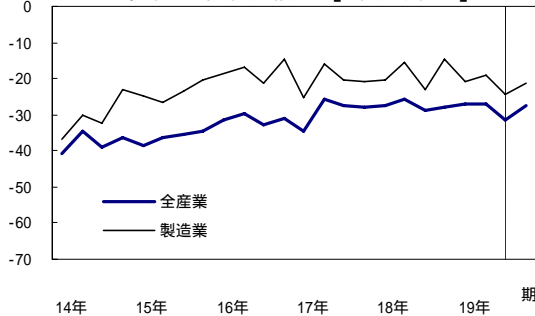
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年12月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。
九州地区のD I。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「保険契約の増加が鈍化している。携帯関係の契約数も横ばいである(会計事務所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 19年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

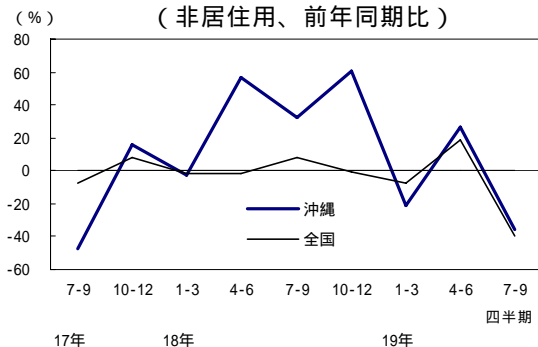
企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	18年度実績	19年度概
全産業	7.6	12.4(0.8)
製造業	0.3	18.7(17.1)
非製造業	8.6	11.6(1.9)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。石油・電力を除く。

建築着工床面積

(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

百貨店販売額、スーパー売上高、家電卸出荷額及びコンビニエンスストア販売額

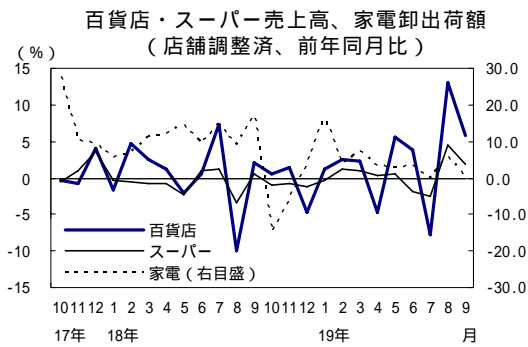
百貨店は、7月は、台風による休業に加え、旧盆の後ずれによる中元商戦の遅れから主力の食料品が不振となり前年を下回った。8月は、中元ギフトの販売で客足を順調に取り込み、食料品や食堂喫茶が好調に推移し前年を上回った。9月は、秋物衣料品に弱さがみられたものの、食品専門店の新規出店効果や催事イベントや物産展の実施に伴い、前年を上回った。

スーパーは、食料品販売が堅調に推移し、前年を上回った。

家電は、エアコンや洗濯機などの高付加価値製品を中心に売上が伸び、引き続き薄型テレビが好調だったことから前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「施設利用者の7月の前年同月比は109.2%、今月は25日現在で109.6%と同程度の伸びになっている。入域観光客数は順調に推移しており、来園者は、一般団体、修学旅行、家族連れ、カップル等が中心だが、今月は一般団体と修学旅行が目立っている(観光名所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



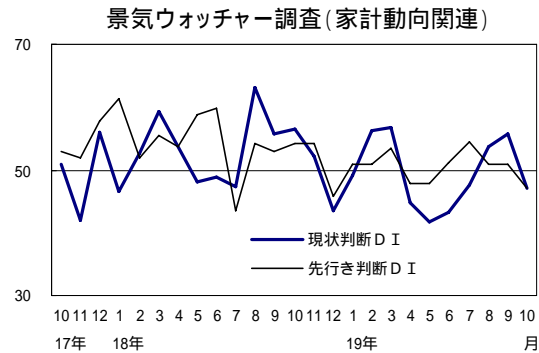
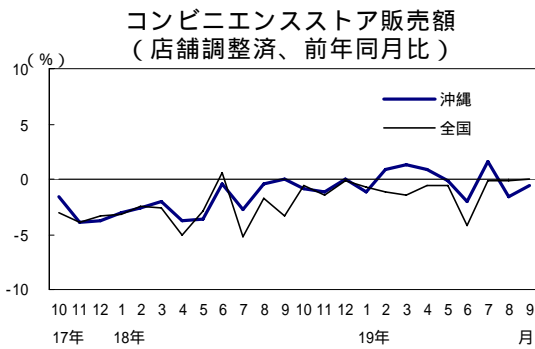
(前年同期比、%)

	18年10-12月	19年1-3月	4-6月	7-9月
百貨店	1.5	2.0	1.4	2.7
スーパー	1.0	0.6	0.3	1.3
家電卸出荷額	5.1	8.7	3.1	1.8
コンビニ	0.7	0.3	0.5	0.2
景気ウォッチャー	50.7	54.0	43.2	52.4

(備考) 1. 百貨店、家電は沖縄銀行調べ。

2. スーパー、コンビニは日本銀行那覇支店調べ。店舗調整済。

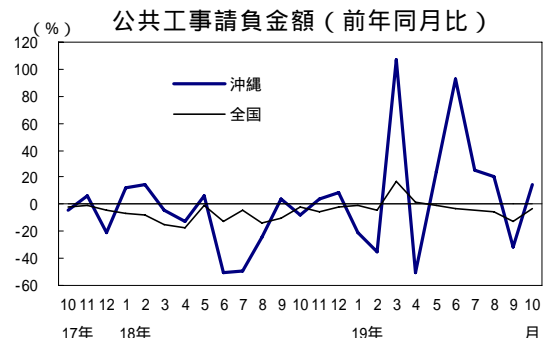
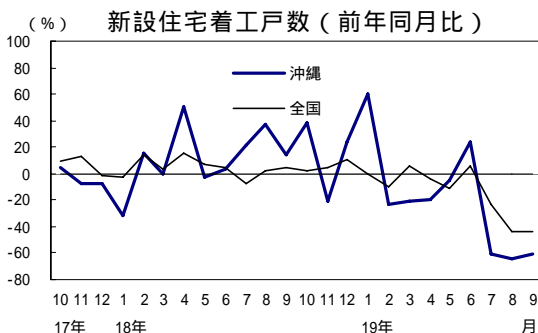
3. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

貸家、持家、分譲、給与すべてで前年を下回ったことから大幅に減少している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

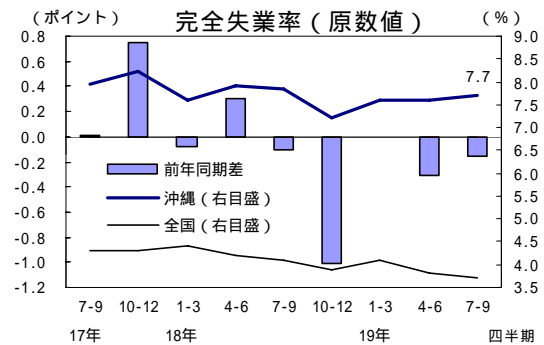
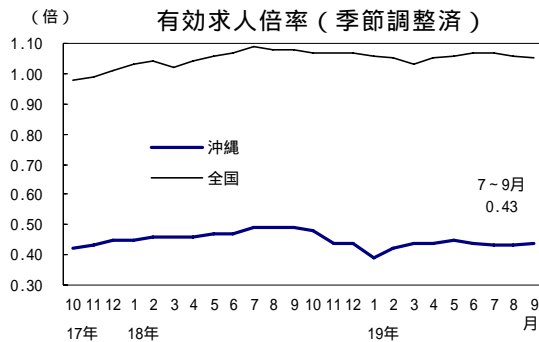


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(10月)[雇用関連(現状)]

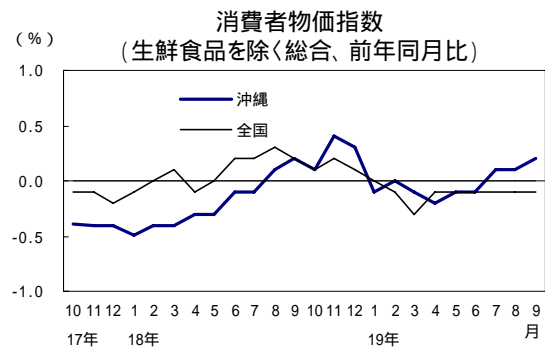
「新卒向け求人の中でもIT関連の求人は順調であるが、それ以外の業界に関しては顕著な増加はみられない(学校[専門学校])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に減少し、負債総額も減少している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	18年10-12月	19年1-3月	4-6月	7-9月	19年10月
倒産件数	19	15	23	16	7
(前年比)	0.0	7.1	27.8	50.0	22.2
負債総額	285	14	44	15	10
(前年比)	698.7	75.0	16.7	83.1	61.8



景気ウォッチャー調査(10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・大手旅行会社の商品も10月までは夏商品として展開が主流となり、当ホテルも夏から引き続き好調さを保っている(観光型ホテル)

<先行き>

- ・原油高騰を初めとして悪化与件が多く、まだ先行きに回復の兆しがみえない。それでも天候さえ戻れば幾分かは回復すると判断するが、状況的には厳しい(百貨店)

